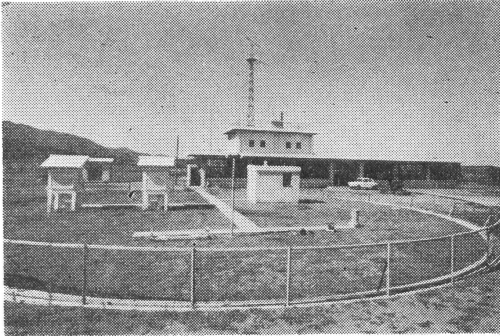


地方だより

福江測候所

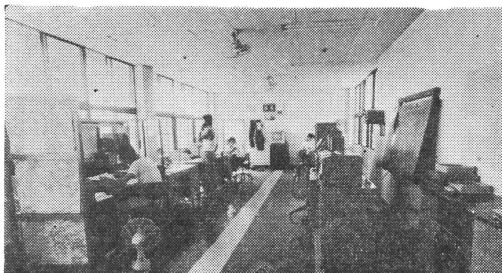


福江測候所全景

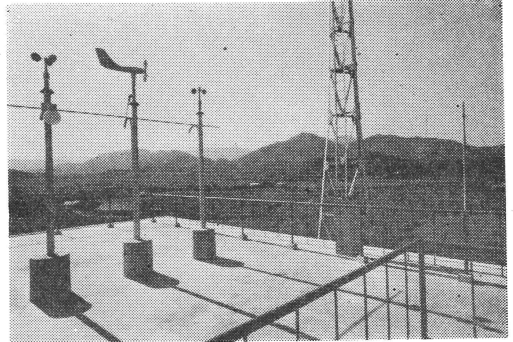
当測候所の前身は大正13年6月1日創設された富江測候所である。所在地であった富江町はサンゴ採取やカツオ・マグロ・イワシ等の近海漁業の根拠地としていんしんをきわめ、それだけに気象協力に対する要望も深く大きいものがあつた。それにこたえる歴代職員の間味な奮闘努力によって多年にわたり職責は完全に遂行されていた。しかし、星移り歳改まって欧風近代建築をほこっていたしやしやな庁舎もいつのまにか老朽し、ついに使用不能の状態に陥っていった。そしてまた、いつのまにか政治・経済・交通・産業の中心は富江町から約20km離れた福江町に移り、やがて福江町は市制を敷くまでに発展していった。そこで新庁舎は福江市に建てることになり、その完成後の昨年4月30日富江測候所はその輝かしい歴史の最後のページを閉じ、翌5月1日から福江測候所として新しいスタートをきったのである。

新庁舎は鉄筋2階建て、その特徴は中央玄関ホールを境として東西に事務室・現業室と鶴翼を張り、小部屋で区切ることなくはしからはしまで突き通したことである。また、ロビンソンやダインスなどもお別れして杯式や風車型風向風速計のおせわになったことも庁舎の超近代的スマートなスタイルを断然引き立てている。

福江測候所は富江測候所の業務いっさいを、地震観測だけが一時中断されたほかは欠測することなく引き継いだものである。しかし、多年累積された観測値は一応切り離され、極値や平年値はこれから新しく積み上げていくことになっている。その意味では新設の測候所であり、いま若々しい記録づくりの時期である。降っても照



現業室



2階屋上の測風器械、右はファックス受信アンテナ

っても記録が更新されていく。豪雨や暴風雨の観測にもおのずから力が入ろうというもので、当番者はさかんにそれを競い合っている。

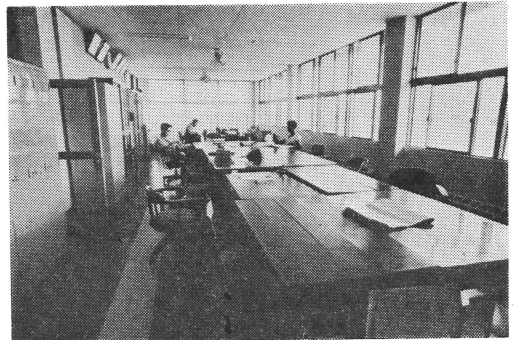
福江市に移ってからは気象協力でも一段と活気がみなぎってきた。五島地方を統轄する行政機関や団体が集中しているからである。なかでも1市10町(日20カ町村)を管轄する長崎県五島支庁や警察署・海上保安署・専売局や新聞・放送機関などの連絡が急に便利となり緊密度が倍加された。特に五島有線放送局との関係は管区気象台中央放送局とも比すべき密接さである。

移って早々の昨年9月、市内の大半を焼き尽くす大火が起こり、市民の生活と行政経済産業のほとんどをひっそくさせるに至ったが、その後活発に再建が進み、現在めだって復興しつつある。

移ってからの職員の最大の悩みは海が遠くなり、ために鮮度が落ちたことである(といっても都会では味わえぬ新鮮さであるが)。そこで好きな者は無理して買ったオートバイなどを飛ばして釣に出かける。黒潮の打ちつける岩頭に立って大きな手ごたえともに躍動する大物を釣り上げる豪快さは島ならではのだいご味であるという。

九州本土との交通には長崎港から毎日1往復の船便があるほら、ことしからは大村空港からの4往復の飛行便も開設された。その福江空港には近く気象分室が開かれる予定で、いまその準備が着々進められている。

(38.8月 岡部正勝記)



事務室